

# 祝 NHK大河ドラマ『青天を衝け』配役決定!



渋沢平九郎肖像

越生ゆかりの志士・平九郎役は

おかだけんし

**岡田健史**さん (21歳)

デビューから2年、青春ドラマ、刑事もの、時代劇と、多彩な演技が注目されています。気鋭の若手俳優が演じる「平九郎の叫び」に期待しましょう!

渋沢栄一の養子(妻・千代の弟)

しぶさわへい くらう  
**渋沢平九郎**  
(尾高平九郎)

写真は『渋沢平九郎―幕末維新、二十歳の決断―』渋沢史料館2018 チラシより



明治45年(1912)「自決の地」(上)と全洞院(下)を訪れた渋沢栄一一行

享年22歳、平九郎終焉の地  
**渋沢平九郎自決の地**

慶応4年(1868)旧暦5月23日、新政府軍と幕府方・振武軍の戦い(飯能戦争)は、振武軍の大敗に終わった。敗走の途中、新政府方の広島藩神機隊の一隊と遭遇。2人を斬りつけ奮戦したが、自身も深手を負い、近くの岩に座して自刃した。

明治32年(1899)、明治45年には、渋沢栄一や尾高惇忠が黒山に墓参に訪れている。

所在 越生町黒山954-3

脱走の勇士「だっそ様」を弔う  
**渋沢平九郎の墓(全洞院)**



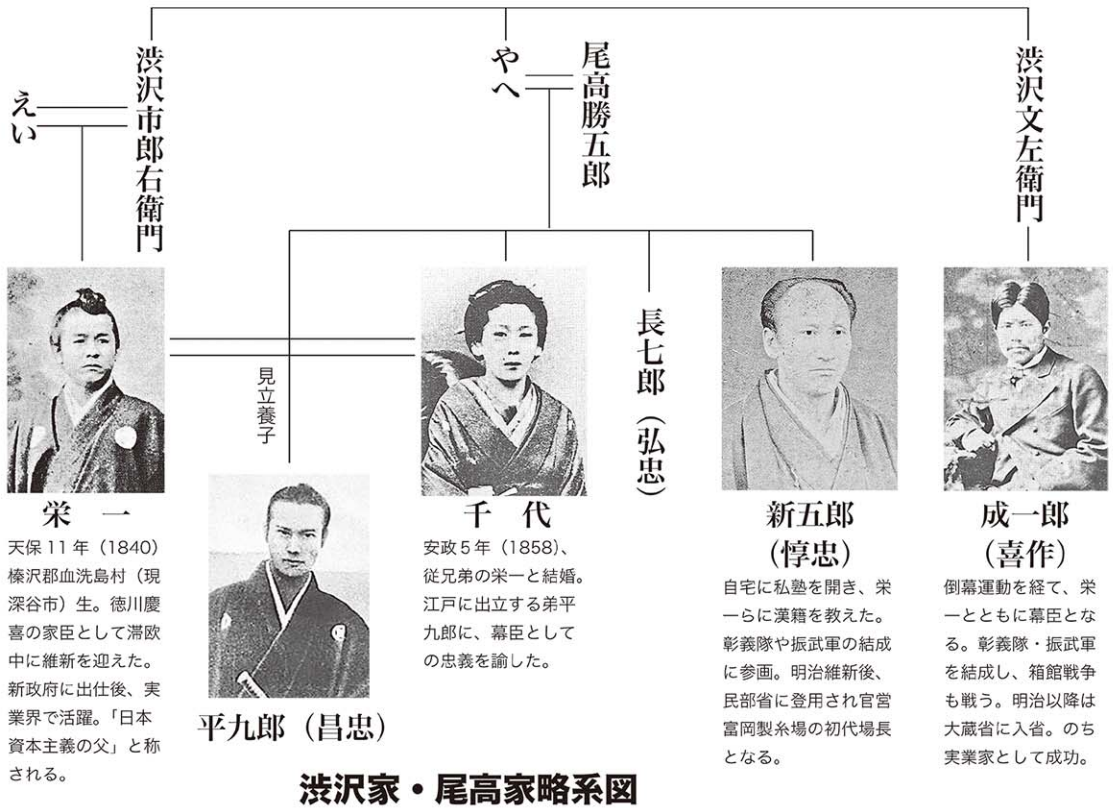
明治7、8年頃建立

平九郎の骸は村人によって全洞院に埋葬された。全洞院に遺る白木位牌には、「眞空大道即了居士位」、「俗名不知江戸之御方而候 於黒山村打死」と記されている。

明治6年(1873)、栄一は平九郎の遺骸を、東京谷中霊園の渋沢家墓地に改葬するように命じた。その後、この墓石が建立された。

所在 越生町黒山734

慶応3年(1867)、尾高平九郎は、渡欧する渋沢栄一の見立養子(相続人)となり渋沢姓を名乗る。幕臣の使命感に燃える平九郎は、兄の惇忠や従兄弟の成一郎らと「彰義隊」・「振武軍」を結成する。  
 (写真は『渋沢栄一、パリ万国博覧会へ行く』渋沢史料館2017より)



## 記憶される壮絶な最期

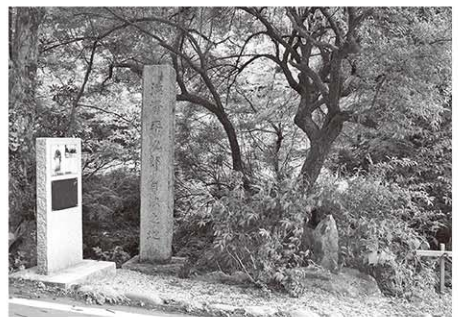
## ～深谷と越生の碑をめぐる～

### 「渋澤平九郎昌忠君招魂碑」



大正元年(1912)、甥の尾高次郎が建立。尾高惇忠生家(深谷市指定文化財)の墓地内にある。

撰文は埼玉県文化財専門調査員の山口平八。平九郎が自刃した「自刃岩」の脇には、「平九郎グミ」と呼ばれるグミの木がある。



### 「渋澤平九郎追懐碑」



「人の樂しみを樂しむ者は人の憂いを憂い 人の食を食らう者は人の事に死す 人之食者死人之事」

平九郎五十回忌の大正6年に建立。平九郎の遺墨が刻まれている。平成26年、谷中の渋沢家墓地から深谷の旧渋沢邸「中の家」に移設。

### 「渋澤平九郎埋首之碑」

昭和39年(1964)、法恩寺境内に建立。栄一の甥にあたる渋沢元治の揮毫である。裏面の撰文は「渋澤平九郎自決之地」と同文。

平九郎の首は今市宿(現越生市街地)に晒されたが、今市村の島野喜兵衛と黒岩村の横田佐兵衛によって密かに法恩寺に埋葬された。



### 「渋澤平九郎自決之地」碑

昭和29年(1954)、梅園村青年会と八基村(現深谷市)青年団によって建立された。

題字は栄一の孫で財界人、民俗学者の渋沢敬三。